

学 界 消 息

1. 岡田武松氏逝去さる 9月2日早暁名誉会員、前々台長(4代)岡田武松氏が逝去された。享年82才。氏の仮葬儀は4日布佐の自宅において、また本葬儀は6日青山斎場において気象庁葬をもって行われた。本葬儀において島山理事長は日本気象学会を代表して弔辞を讀まれ追悼の意を表した。

2. 学会賞選こう委員* 本年度の学会賞受賞者の選こう委員は、次の諸氏に依頼することになった。

正野 重方	東京大学
山本 義一	東北大学
寺田 一彦	気象庁定点観測部
今井 一郎	気象庁気象研究所
高橋浩一郎	気象庁気象研究所

3. 気象学会史編さん理事に根本氏 日本気象学会創立75周年記念事業の一つとして、日本気象学会史を編さんするが、その担当者 渡辺和夫理事は、このたび、アメリカ合衆国に出張されるので、新たに根本順吉氏が、その担当理事となった。

4. 原水爆被害調査総合シンポジウム 去る8月17日(金)午後2時から、参議院会館第2会議室において、原水爆禁止日本協議会、国際技術協力協会、新日本医師協会、国際医師会議準備会、民主主義科学者協会、気象研究所原水爆調査グループ、水産研究者協議会の主催の下に、原水爆被害調査総合シンポジウムが開催され、世界科学者聯盟の書記長であり、パリ物理学校の教授であるピカール氏、チェコの大学教授、ハッチェック氏およびフルフェソバ女史を中心にして、各方面の技術者、研究者が集まり、諸氏の講演があった。気象関係では、立教大学の道家氏(小川氏が代読)が大気中の放射能について述べ、

気象庁気象研究所の矢野氏が雨、塵の放射能について気象庁気象研究所の石井氏が「The Radioactive Contamination in the Upper Atmosphere」と題した講演中、ラジオ・ゾンデによる観測によって、大気中の放射能は圏界面付近で極大になっていることを明らかにした。また、

気象庁気象研究所の藤田氏は「Climatic Abnormalities as Related to the Explosions of Volcano and Hydrogen-bomb」について述べた。

気象関係以外では、水産関係で、魚の汚染について、医学関係では、放射能病について、人工放射能による遺伝について、その他の講演があった。

最後に、フルフェソバ、ハッチェックおよびピカールの諸氏の讃辞と激励の言葉があった。

5. 会員の動静

佐々木嘉和氏(東京大学)は、去る8月30日アメリカ合衆国テキサス州の農工大学に気象学研究のため渡航された。

前田嘉一氏(気象庁気象研究所)は、去る9月10日合衆国ネブラスカ州立大学

松本誠一氏(気象庁気象研究所)は、去る9月11日合衆国ボストンのマサチューセッツ工業大学(M.I.T.)に気象学研究のため渡航された。

なお、現在アメリカ合衆国で研究している会員には、ジヨンス・ホップキンス大学に、小倉義光氏(東京大学)シカゴ大学に、笠原彰氏(東京大学)

ニューヨーク大学に、大山勝通氏(気象庁)

マサチューセッツ工業大学(M.I.T.)に小平信彦氏(気象庁気象研究所)等

がいる。

6. 新入会員 石川業六(気象庁気象研究所、河村四朗(気象庁海上気象課、琉球大学図書館(代表者 館長 平良文太郎)

○関西支部だより○

関西支部の7月月例会は6日(金)舞鶴第八管区海上保安本部会議室で開かれた。季節風に関するシンポジウムで夏場にテーマが不向きかとも思われたが、会場は気象台、大学の外に保安本部、海上自衛隊からの人達で盛況を呈した。季節風には毎年いためつけられている山陰地方の人々にとっては、切実なものがあるのであろう。

午前10時30分から12時までは、ゼミナールで支部長滑川京大教授の司会で、神戸大学北村良夫氏は Craddock "The Warming of Arctic Air Mass over the Eastern North Atlantic" Q. J. R. M. S. **77**, 355—364, 1951. 筆者は Petterssen "On the Propagation and Growth of Jet-stream waves, Q. J. R. M. S. **78**, 337, 1952. および Oliver "A method for agglying tilted-trough theory to synoptic forecasting in the mid-troposphere" B. A. M. S. **34**, 368, 1953. を紹介した。

午後は季節風に関する一般講演で、川崎英男氏「日本海の統計資料の発表」、後藤大喜夫氏「時雨について」、大西正信氏「日本海の低気圧の発達について」、吉田実氏「季節風発達の要因について」、高橋一男氏「隠岐航路における turbulence」塩見則夫氏「波浪と季節風による高潮」、吉岡盛一郎氏「暖冬と寒冬について」が発表された。座長は前半が内田京都測候所長、後半が三沢松江測候所長であった。夜は懇親会で着任早々の柴田神戸海洋気象台長も見えていた。(大阪管区 山本)